

東アジア言語文化研究

第8集

基調講演

超越と土着 奥野政元
— 21世紀日本学研究の国際化 —

国際化時代の芥川研究 曹紗玉

論文

類義機能辞競合の実態と原因追及 毛文偉

日本語と韓国語の視点意識 黃美玉

「時間接続のウチニ構文とモウ、マダ」再訪 山崎和夫

複合語と連語の境界 周星
— 名詞性のものを中心に —

日本語のアスペクトと動詞分類 松村瑞子

日本語教材の普通体会話の提示と会話実例の質的分析 因 京子・王竜
—若い男性話者による会話を中心に —

日韓の言語行動の比較 李奈娟
— 自然会話データの比較を通して —

コミュニケーション能力養成を目指す教科書会話の条件 席衛国
— 日中の初級日本語教科書の会話文の比較 —

テアル構文の意味拡張メカニズム 趙海城
— 「アル」の文法化の度合を中心に —

- 日中のネガティブ・ポライトネスの対照研究 平静
— 日本語と中国語の談話分析を通して —
- 日本学研究の国際化における日本語教育の国際化のための実践 金璽罣
- 『羅生門』をめぐって 許慈惠
- 「支那遊記」における芥川龍之介の「西洋」観 高潔
— 半植民地としての近代中国への認識 —
- 日本文化に見られる二重の性格 季林根
— 風土と文化のつながりを中心に —
- 非常道から見た日本武士道 談建浩
— 武士道に対する意識と対応性について —

東アジア言語文化研究会

2007年6月1日